慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	陽明文庫蔵「道書類」の紹介（七）『大灯國師法語』翻刻・略解題
Sub Title	
Author	恋田, 知子(Koida, Tomoko)
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	2010
Jtitle	三田國文 No.51 (2010. 6) ,p.27- 32
JaLC DOI	10.14991/002.20100600-0027
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-20100600-0027

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

陽明文庫蔵「道書類」の紹介（七）
『大灯國師法語』翻刻・略解題

恋田知子

前号に続き、陽明文庫蔵「道書類」のうち、『大灯國師法語』を紹介する。これまでも述べたように、陽明文庫蔵「道書類」は、仮名法語を中心に、あわせて十八種類の書物が一括されたものであり、慶長・元和年間（一五九六―一六二四）の奥書を有するものが含まれていることや、とりたてて書写時期の異なるものも見えないことなどから、本書についても、おそらく同じ時期に書写されたものと推察される。[1]

『大灯國師法語』は、前号に紹介した夢窓の『二十三問答』同様、禅宗の仮名法語で、大灯國師、すなわち宗峰妙超（一二八二―一三三七）によるものである。宗峰は、京都紫野の竜宝山大徳寺の開山となり、後醍醐天皇、花園天皇両朝から帰依された一方、妙覚寺と称する尼寺を設けるなど、女性に対しても禅の教えを広めていたことで知られる。

本書は、『大灯國師法語』のうち、宗峰が萩原（花園）天皇の皇后に説示したとされる法語部分のみを写したものであり、『大灯國師法語』との外題を有すものの、「道書類」に収められた他の法語類と同様、抄出本となっている。『大灯國師法語』は、江戸初期に開版された版本が広く知られている一方、早苗憲生氏によって、『聖一仮名法語』や『大應國師法語』など他の禅宗仮名法語と合写された蓬左文庫本が紹介されるなど、開版以前の書写状況も明らかにされつつある。[1] 本書についても広く流布した版本とは若干の異同が認められ、皇后に向けた法語のみを抄出している点でも特徴的である。また「道書類」には、抜隊得勝の仮名法語のうち「神竜寺尼長老」に宛てたとする法語箇所を抄出し、夢窓や法燈の法語や和歌を合写する『抜隊法語』も収められており、こうした禅宗の仮名法語が、江戸の開版を迎えるまでに、どのような書写過程を経てきたのか、考察する上でも有益な書物群といえるだろう。

本書の書誌については、以下のとおりである。

・函架番号　近ト―七二―ホ
・形態　写本。一冊。仮綴。
・寸法　縦二八・八糎。横二二・四糎。
・表紙　本文表紙共紙。楮紙。
・丁数　墨付十五丁。
・本文　半葉五行。漢字平仮名交じり。字高約一八・五糎。
・外題　左肩に「大灯國師法語」と打付墨書。

・内題　なし。
・奥書　なし。
・印記　一丁表右上に「陽明蔵」の朱額形印あり。

翻刻に際して、本文は底本に忠実を期したが、私に句読点を打つなど、読解の便宜をはかった。

注

（1）陽明文庫蔵「道書類」の詳細については、『三田國文』連載の翻刻紹介のほか、拙稿「室町期の往生伝と草子―真盛上人伝関連新出資料をめぐって―」（『唱導文学研究』第六集　三弥井書店　二〇〇八年）、拙稿「説法・法談のヲコ絵―『幻中草打画』の諸本―」（『仏と女の室町　物語草子論』笠間書院　二〇〇八年）、拙稿「比丘尼御所文化とお伽草子―『恋塚物語』をめぐって―」（徳田和夫氏編『お伽草子　百花繚乱』笠間書院　二〇〇八年）を参照されたい。

（2）早苗憲生氏「蓬左文庫本『聖一假名法語』の研究（一）本文編」（『禅文化研究所紀要』六、一九七四年五月）参照。室町時代写とされる蓬左文庫本には、尾州徳川義直の蔵書印が付され、徳川家康の集書本であったとする。

【附記】

本書の閲覧ならび翻刻の御許可を賜った、財団法人陽明文庫に深く感謝申し上げる。また、本書の翻刻・考察に際して、御教示賜った、陽明文庫文庫長名和修先生に、心より御礼申し上げる。

なお、本稿は科学研究費補助金　若手研究(B)（課題番号二二七二〇〇九〇）による研究成果の一部である。

【翻刻】

凡　参禅学道之輩　初心之時ハ　坐禅ヲ　専トナスヘシ。其坐禅ト云ハ、或ハ結跏趺坐、或ハ半跏趺坐シテ、眼ヲ半目ニ開テ、父母未生以前之本来ノ面目ヲ見ヨ。父母未生以前ト云ハ、父母未スレ生ス、天地モ未分ス、我モ未人ノ姿ヲ請サル以前ヲ見ヨ。本来ノ面目ト云物顕スヘシ。彼本来之面目ト云物ハ、色形ナキ物也。譬ハ虚空ノコトシ。虚空ニハ形ナキ物也。故ニ佛説云、仏身法身ハ尚虚空ノ如シト説タマフ也。仏身ト云モノモ法身ト云物モ本来ノ面目ノ事也。彼本来ノ面目ハ名字ナキ物也。本来ノ面目トモ、或ハ主人公トモ或ハ佛性トモ又ハ心仏公トモコナタヨリ名付タリ。譬ハ人生タル時ハ、名ハ無レトモ、以後ニ色〳〵ニ付タル也。一千七百之公案ニテ話頭之数千七百候ヘトモ、各々心本来ヨリノ面目見セシメンタメナリ。世尊雪山ニ六年端坐シテ明星ヲ見テ悟タマフ也。彼面目ニ相見シ玉フ也。其外古人之大悟大徹ト云モ彼面目ニ相見スルヲ云ナリ。六祖」（2オ）

ハ金剛経ニ應無所住而生其心ト説ヲ聞サトリ、香厳和尚ハ瓦ノ竹ニアタルヲ聞悟、臨済ハ黄蘗和尚ニ六十棒ウタレテ悟、洞山和尚ハ水ヲ渡トテ我影ヲ見テ悟、彼本来ヨリノ主人ニ逢事也。彼肉身ハ家也。家ニハ主人アルヘシ。彼主ハ本来之面目也。我トモ誰トモ云也。暑寒ナド、知」（2ウ）

或ハ物ニ貪着之心アリ。或ハ欲心或ハ皆々妄念也。実々家主ニテ無也。彼妄念ハ尽物也。一息之縁切時ハ同消失物也。彼妄念引ルレハ、地獄ニ落、六道ニ輪廻スル也。妄念起源ヲ能々座禅ヲシテ見ヨ。全念ハ形ナク躰無物也。死ハ後モ彼念ハ殘テアルヘシ。思ニヨリテ娑婆世界ニ輪廻シ苦ヲウクル也。時之起念ヲ捨ヘシ。古人云ク、心生スレハ種々之法生ス。心滅スレハ、一念起事ナキ也。又一念ヲ得ニヨリテ種々之悪心起レハ色々ノツミ造リテ悪道ニ堕也。心滅ストハ、一念ハ本者躰無、死スレハトモニ死スル物也ト思ヘハ、地獄天道モナキモノナリ。譬畫師ノ如ク、本白キ紙ナルニ色々ノ地獄ヲ書、罪人ヲカキ、鬼神ヲカキ、極楽浄土ナントヲ書出スカ如シ。本来ハ明白ニテ、地獄モ極楽モナキヲ、一念ヲ以テ造出スナリ。只念ヲ拂捨事ヲ専トスヘシ。又念ヲ拂ト云ハ、坐禅ヲスヘシ。念ヲ納レハ本来之面目顕ル、也。念ハ縦ハ雲ノ如シ。雲晴レハ月アキラカ也。真如之月ト云モ、本来之面目事也。又曇ヲ拂ソロヘハ、鏡ニ顕ル、也。念ヲ納テ未生サレ。先之面目ヲ見ヨ。生レサル以前ト死テ後如ヘシ。不レ生以前ハ地獄モ極楽モナシ。只、本来之面目ノミ在レ之。コトナル事無。本来面目ト云ハ、形ナト有ヘキ物ニテハアラス。能々工夫シテ見玉フヘシ。肉身ハ死スレトモ、伊ハ死セス。肉身ハ生スレトモ彼ハ生セス。去故ニ不生不滅ノ者也。彼本来之面目ハ生死之根源之利剣トモ名付タリ。真佛トモ云。又木ヲ刻繪ヲカケルハ影像トテ実ノ仏ニテハ有ス。一心則是仏也。心ノ外ニ別ニ仏アリト思ヘハ外道也。仏ヲ以テ仏ヲ礼スル如シ。仏ハ経ヲ誦ス。戒律ヲモ持ス。又戒体ヲモ犯ス。又善悪ヲモ造ス。本真実之仏ニ相タテマツラント欲セハ、見性スヘシ。若見性セスンハ、念仏讀経シテ戒体ヲタモツトモ閑事ナリト、達磨大師説玉フ也。見性セサル人ハ善知識相奉、生死之根本ヲ明ムヘシ。見性セスンハ縦十二部経ヲ誦得トモ、生死ノ輪廻ヲマヌカレスシテ、三界ニ苦ヲ受ヘシ。昔善生比丘ト云人アリ。十二部経ヲ讀得タリ。シカレトモ覚スシテ仏ノ説タマフ口マネヲノミシテ仏ノ内證知サルニヨリ、地獄ニ落ル也。梁武帝ハ僧十二人ヲ請シテ常説法サセタマフ。志公之内ニ雲光法師トテ大学匠アリ。仏四十九年ノ説法ヲ我物ニナシテ説タマフ人也。時ニ志公ノタマハク、彼人弁口利舌ニシテ説法ストイヘトモ、不レ覚ニヨツテ畜類ナリト云。武帝志公如レ此イウ処ヲモチイタマハス。則高座ニ登テ説法セントスルヲ見タテマツレハ則牛也。カクノコトク不レ悟人ノ説候ハ結縁ハカリニテ候。真実ノ志ニテハアラス。

悟ノ人ハタ、常物語モ御法ノ声ナルヘシ。見性トハ心仏ヲ悟ヲ云也。能々念ヲ納テ心仏ヲ見ヨ。加様ニ申セハ、座禅ニアラスシテ見性スヘカラスト取置也。是錯ナリ。三祖大師ノ云、行モ又禅、坐モ又禅、語黙動静躰案然ト説タマウ。是ハ」（7オ）

ヲウコカスモ皆禅也ト説タマウ也。只念ヲ納テ居タル斗座禅ニテハ有ヘカラス。起居ニ心ヲツケ念ヲツケテ不審ヲナスヘシ。忽然トシ本来ノ我ニ見性スヘキ也。成仏トモ云、彼一心ノ仏ナルヲ知ルヲ成仏ノ人ト云ナリ。彼心仏ハ善ヲモ修セス悪ヲモ造ラス。戒律ヲモ持ス。精進セス懈怠セス。貪着之心ナキ也。眼ニ色ヲ見テ色ニ着セス、耳ニ聲ヲ聞テ声ニ着セス、舌ニ物ヲ味テ着セサル心則仏也。馬祖和尚ノ即身即仏ト示シタマウモ此コトハリナリ。或人達磨大師ニ問、地獄トハ何レノ所ソヤ。答云ク、汝カ心中ノ貪瞋癡ノ三毒コレ地獄也。問云ク、貪瞋癡ノ三毒トハ何事ソヤ。答テ云、貪ト云ハ貪着ノ念也。只此三毒善悪ノ報ヲ造出ス也。別ニ地獄トテ世界アルヘキト思ヘハ迷者也。又問テ云、浄土、申ハ何ノ所之境界ニテ候哉。答云ク、極楽浄土トテ外ニアルヘカラス。只汝カ心中ニアリ。前ノ三毒汚穢不浄トテ不レ清物也。彼三毒ノ不浄ヲ拂所即浄土也。色々ノヨコレタル妄念ヲ拭捨」（8ウ）

ヲ浄土トハ云也。別ニ浄土ヲ求ヘカラス。有人達磨大師ニ問、仏一切衆生ヲシテ伽藍ヲ修造シ、佛像ヲ建立セシメテ焼香礼拝セシメ六時ノ行道ヲシテ請スヘシト説タマウ。是ナンソヤ否。答云ク」（9オ）

解処ノ法無益ノ方便也。一切衆生鈍根下劣ニシテ、微妙ノ法ヲ不レ覚、思暫伽藍ヲ修造シ、仏像ヲ建立セシメテノ結縁ニヨリ、真実ノ伽藍説モ、至テ真佛ヲモ見タテマツラン事疑アルヘカラスト加様ニ解玉フ也。問云、真実ノ伽藍并真仏トハ何ヤウナルヲ云ソヤ。元根ヲキヨメ身心旦然トシテ内外清浄ナルヲ真実ノ伽藍殿堂トハ申也。サテ又、伽藍ノ本尊ハ心仏ノ明ニシテ顕タマウヲ実ノ仏トハ云也。只妄念ノ不浄ヲノゴヘハ、真佛顕出ル也。伽藍ヲ作、真仏ノ形ヲ建立スル人ト云フ也。達磨大師如レ此説タマウヘハ、伽藍ヲ修造シ仏像ヲ建立セハ、其功力ニヨリ必真ノ伽藍ニ至」（10オ）

リ、真仏ニ逢タテマツル事決定タルヘシ。真仏花厳ニ云ク、三界唯一心、々外ニ無二別法一、心仏及衆生、是三無二差別一ト説タマウ。彼心ハ牛馬畜類鳥類虫螻モ人ノ請タル心仏ト一躰也。故ニ仏一切衆生皆同仏性ト説タマウ也。佛性ト云モ本来ノ面目トモ主人公トモ一躰ニシテ名異也。名ノ別ナルニヨツテ心得ノカハルニテハアルヘカラス。彼一心何ニ譬ヘキカタナシ。寒山ノ云、我心秋月ニ似ト頌シ出サセ玉フ」（10ウ）

也。カヤウニ候ヘハ、月ノ如ク圓物ニテモアルヘシト思ヘカラス。長モナク短クモナク圓クモナク四万ニモナキ物也。形無シテシカモ三千大千世界ニ充満タリ。火中ニアリテモ火不レ焼、水中ニアリテモ溺ス。穢不浄ニアリテモケカサレス、三災壊却テ三千大千世界破レトモ全破ス。朽サルモノ也。故無門和尚本来ノ面目ヲ題スル頌ニ云、本来ノ面目蔵所無。世界破ル、時、カレ朽スト修シタマウ。此理也。僧恵禅師ニ問、一人アリ忙シキ所ヲ嫌閑ナル所ヲ好テ身心ヲ動セス。善悪ヲ思惟セス、天然ト座スルヲ座禅トス。是ナリヤ否。大恵禅師答ニ云ク、是是ニアラス。天然ノ座禅トテ深先徳ノ嫌所也。是又外道ハ非々想定トテ善悪ノ思量ニワタラス、天然トシテ動セス、念ヲ起サル所ノミヲ是ス。是ハ空見無見ニ深落物也。又念ヲコラサル所ニ別ニ物アルヘシ。」（11オ）（11ウ）（12オ）

ト思モ有見也。有無ノ見トテ何レモ捨ヘキ事也。サテ有無ニ不レ渡所ノ一句アルヘシ。彼一句ト云ハ、本来ノ主人ニ相見スルヲ云也。外道ハ彼主人ヲ知スシテ、人ハ死テ後空ニシテ無ナリト斗、心得有アラス無ニアラサル物ヲ夢ニモ不レ知也。以前僧ノ問ゴトク、忙キ処ヲキラヒ静ナル所ヲコノム時、彼主人ハ閑ナル所、斗ニアリテ閙キ所ニハアルヘカラス。彼本来ノ面目ハ忙シキ所ニモアリ。又閑ナル所ニモアルモノナリ。古人云、有心ヲ以テ来ヘカラス。着念ヲ以至ヘカラスト説タマウモ此事也。念ヲ起サス身心不レ動天然タル所仏法ニテ候ハ、枯木石頭モ仏法ヲ會シタル物ソヤ。努々カヤウノ見解スヘキ也。善悪有無ノ心ニ渡サル所ニ一句ヲウケガウヲ大悟大徹ノ人ト云也。或人達磨大師ニ問、出家髭髪ヲ剃落、衣ヲカヘタルヲ出家ト云ニハアラス。見性ノ人ハ在家ノ白衣モ又是出家ナルヘシ。袈裟ヲ着シタリトモ不レ悟ハ、未出レ家サル凡夫タルヘシ。又問、白衣ハ妻子アリ、淫欲除カス、何ニヨツテカ成佛スル事ヲ得ン。答テ云、見性トハ淫欲ヲキラハス、見性セサセンカタメ也。只見性スル事ヲ得ハ、淫欲本来空寂ニシテ行果ス。又樂着ス。譬ハ習心有モ戒ヲナス。故ニ如何トナレハ心性モト清浄ニシテ」（14オ）赤肉ノ内ニアリトイヘトモ、染汚スルニアラス。心性本来清浄ニシテ、飢タル事ナク、渇スル事ナク、熱ナク、病無、恩愛ナク、眷属ナク、苦モナク、樂モ無、本来一物也。只此色心アリト思ニ依テ寒熱色々ノ病アリ。此色心本来空ナリト心得トキ〳〵ニ貪着ノ心捨ラルヘシ。金剛経」（14ウ）

ニ一切有為法如夢幻泡影如露亦如電應作如是観ト説タマフモ此事也。以前申如ク、善ヲモ思ハス、悪ヲモ思ハサラン所也。是本来ノ面目ト行住坐臥ニ心ヲ付テ見ヨ。忽然トシテ彼面目

相逢日アラン。譬ハ又今生ニテ不レ覚トモ臨ニ命終時一、悪業ニ引テ悪道堕スシテ、来生出世シテ必一ヲ聞テハ千ヲ悟、千ヲ聞テ万ヲ悟ヘシ。努ヘ疑ヲ證スル事ナカレ。

」（15オ）

」（15ウ）